スクールホットライン

遠足と社会見学

from 志水小学校

四月三十日(水)、一年生から三年生までの子どもたちが遠足に、四年生の子どもたちは社会見学に出かけました。出発時はあいにくの雨でしたが、その後回復に向かいそれぞれの見学地で楽しく過ごすことができました。

一年生七十名と二年生六十二名は、名古屋港水族館に行きました。ゴールデンウィークの始まりということもあり、大変込んでいましたが、学級ごとに男女で手をつなぎ、きちんと行動できました。イルカショーでは、子どもたちは目を輝かせ、イルカが技を決めるたびに、大きな拍手をしていました。

三年生四十七名は、大府市にあるあいち健康プラザ・健康科学館に行きました。体と心の健康をテーマに、運動・睡眠・食事について子ども達は楽しみながら学びました。体の仕組みや健康づくりのクイズラリーに挑戦し、グループで協力しながら問題を解きました。

四年生六十一名は犬山浄水場と五条川工場(ゴミ処理場)の社会見学に行きました。浄水場では係の人から、木曽川から取り入れた水が生活に使われる水に変わるまでの説明を聴きました。子どもたちは積極的にメモをとったり、質問をしたりして過ごしました。

また、五条川工場ではトラックで運ばれてきたゴミを焼却炉で燃やす様子を見学しました。中には燃えないものも混ざっており、ゴミの分別の大切さを学びました。

どの学年の子どもたちも帰ってきたとき、とても満足した表情をしていました。

まなびすと

豊山 今昔ものがたり

第百六十七話

秘密兵器風船爆弾

戦争も終わりかけの頃です。名古屋造兵所千種製造所に動員された女子三百人くらいで、風船爆弾の製造をしました。

美濃和紙をコンニャク芋の糊で貼り合わせます。いくつも貼り合わせて直径十mくらいの大きな風船を作ります。

指の先で糊を押し出すように強くこすり、空気が入らないようにして、気球の下から三分くらいのところに太い綱を何本も付けます。その下に爆弾を取り付けるのです。

空気を入れて膨らまして計量機で測ります。少しでも空気が漏れるとまたやり直しです。みんな歯を食いしばって、涙を流して作り続けました。

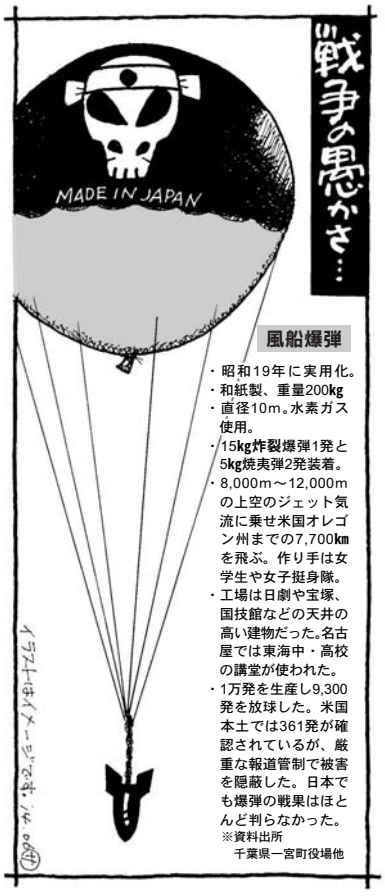
「この作業は絶対に秘密だから家の人や他人には口外せぬこと」と憲兵隊にきつく言われ、「君たちの住所、氏名は軍で調べて管理している」と、絶えず監視されていました。作業服に糊が付いている訳を母に聞かれても、口が開けずびくびくしながらの毎日でした。

その間にも、いつも空襲にさらされ、逃げた山からやっとのことで工場に帰ってくると、門では工員が倒れていたり、あちこちに手足の肉片が散らばっていて、目を覆い泣き伏してしまいました。

戦争では中学生くらいの少女たちも労働力として秘密兵器の生産に駆り出され、空襲と憲兵の監視に脅え、ばらばらの死体を目の当たりにしました。戦争は絶対にしてはなりません。

今は昔の物語です。

(豊山町文化財研究会の郷土文集を参考にしました)



風船爆弾

- 昭和19年に実用化。
- 和紙製、重量200kg
- 直径10m。水素ガス使用。
- 15kg炸裂爆弾1発と5kg焼夷弾2発装着。
- 8,000m～12,000mの上空のジェット気流に乗せ米国オレゴン州までの7,700kmを飛ぶ。作り手は女学生や女子挺身隊。
- 工場は日劇や宝塚、国技館などの天井の高い建物だった。名古屋では東海中・高校の講堂が使われた。
- 1万発を生産し9,300発を放球した。米国本土では361発が確認されているが、厳重な報道管制で被害を隠蔽した。日本でも爆弾の戦果はほとんど判らなかった。

※資料出所
千葉県一宮町役場他